

平成 22 年度事業報告書

平成 22 年度は、引き続き経済が低迷する中、廃棄物処理法の改正法案の成立と政省令の改正、再生砕石のアスベスト混入問題の発生、と大きな動きがあり、3 月には東日本大震災が発生し、災害廃棄物という大きな課題に直面するなど、産業廃棄物処理業界にとって、状況の変化への対応能力が問われる一年となった。

そうした中で、東京産業廃棄物協会は、会員各社と事務局の協力のもと、廃棄物処理制度の改正内容の把握とその普及、東京都と連携した再生砕石の安全宣言に向けた迅速な対応、広域的な災害廃棄物処理支援方策の立ち上げへの東京都と一体となった取り組みなど活発に行動し、次のような事業を行った。

1. 調査研究事業 (1号事業)

法制度の改正、国や東京都などの行政機関の動向、処理技術の開発・改善の状況、会員が直面している課題や制度等に関する問題意識など、状況の変化に対応する必要不可欠な情報を的確・迅速に会員等に提供するとともに、問題解決に向け関係機関に提案を行っていくため、情報収集・調査研究を行った。

調査研究等により得た結果や情報等については、機関誌『とうきょうさんぱい』やホームページ、各種研修会、相談業務を通して会員に提供してきた。

2. 研修事業 (2号事業)

(1) 研修事業

会員企業における、経営基盤の安定、法令の習熟、廃棄物処理知識の充実、資質の向上を図るため、経営者レベル、実務者レベルなど各職層に合わせた研修会、講習会を実施した。また、本年度は制度改正に関する説明会を開催した。

① 安全衛生研修会 [会員対象] 231名

ア 第1回安全衛生研修会

期 日 : 平成 22 年 8 月 25 日 75名
内 容 : 石綿取扱い作業従事者特別教育
講 師 : 安全衛生推進委員会副委員長
場 所 : グリーンホール (千代田区)

イ 第2回安全衛生研修会

期 日 : 平成22年10月25日 92名
内 容 : 廃棄物処理業における労働災害防止対策
講 師 : 東京労働局 講師
場 所 : グリーンホール (千代田区)

ウ 産業廃棄物処理業におけるリスクアセスメント推進研修会

期 日 : 平成23年 2月28日 64名
内 容 : 産業廃棄物処理業におけるリスクアセスメントの必要性
リスクアセスメントの基本と実施に向けて
リスクアセスメントの体験 [演習]
講 師 : 中央労働災害防止協会 講師
場 所 : グリーンホール (千代田区)

② 「収集運搬業社内管理体制構築のすすめ」研修会 [会員対象] 175名

期 日 : 平成22年 6月11日
講 師 : 協会役員 / 収集運搬及び安全衛生推進委員会委員
場 所 : ベルサール西新宿 (新宿区)

③ 医療廃棄物勉強会 [感染性廃棄物許可取得会員対象] 29名

期 日 : 平成22年10月28日
内 容 : 多剤耐性菌について
講 師 : NPO法人バイオメディカルサイエンス研究会 講師
場 所 : 協会会議室

④ 国内処理施設見学研修会 [会員対象] 29名

期 日 : 平成22年10月 1日 ~ 2日
見学先 : アースサポート(株) 処理施設 (島根県松江市)

⑤ 映画上映研修会 [会員・関東地域協会会員・排出事業者等対象] 144名

期 日 : 平成22年12月16日
内 容 : 映画『BASURA (バスラ)』上映会
監督による講演会
場 所 : 日本ペイント(株)東京研修センター (品川区)

⑥ 改正廃棄物処理法説明会

[(社) 全国産業廃棄物連合会・(社) 全国産業廃棄物連合会関東地域協議会・
(財) 産業廃棄物処理事業振興財団との共催]

1,770名

対象者 : 処理業者・排出事業者等
期 日 : 第1回 平成23年 2月 1日 857名
第2回 23年 3月 2日 913名
内 容 : 第1部 改正廃棄物処理法説明会
第2部 特例優良許可制度説明会
講 師 : 第1部 環境省廃棄物・リサイクル対策部 講師

第2部 (財)産業廃棄物処理事業振興財団 講師 ほか
場 所 : よみうりホール (千代田区)

⑦ 産業廃棄物処理実務者研修会 基礎コース 137名

〔(財)日本産業廃棄物処理振興センター・(社)全国産業廃棄物連合会 共催
当協会実施協力〕

対象者 : 排出事業者・処理業者における実務担当者 等
期 日 : 平成23年 2月 4日
講 師 : (財)日本産業廃棄物処理振興センター 講師
場 所 : ベルサール西新宿 (新宿区)

⑧ 産業廃棄物処理業者講習会 [東京都との共催] 224名

対象者 : 東京都の許可更新処理業者 (22年8月～23年7月許可更新)
期 日 : 第1回 平成22年 6月29日 65名
第2回 22年 8月27日 44名
第3回 22年11月24日 51名
第4回 23年 2月16日 64名
場 所 : 東京都議会棟1階都民ホール(新宿区) ほか

⑨ 医療廃棄物処理研修会 [東京都・(社)東京都医師会との共催] 106名

ア 医療廃棄物処理従事者への研修会

対象者 : 特別管理産業廃棄物処理業者 等
期 日 : 平成23年 2月16日 106名
テーマ : 法改正について
医療機関から排出される感染性以外の有害廃棄物の取り扱いについて
講 師 : 東京都環境局廃棄物対策部 講師
有害・医療廃棄物研究会 講師
場 所 : 東京都議会棟1階都民ホール(新宿区)

イ 医療廃棄物適正処理研修会

期 日 : 平成23年 3月26日 <中止>

(2) 講習会事業 (許可申請に関する講習会)

東京都内で実施される許可申請に関する収集・運搬、処分課程及び特別管理産業廃棄物管理責任者の講習会を、実施機関である(財)日本産業廃棄物処理振興センターに協力して実施した。

① 新規許可申請講習会 1,070名

ア 産業廃棄物の収集・運搬課程

期日 : 第1回 平成22年 5月20日～21日 168名
第2回 22年 7月 8日～ 9日 170名
第3回 22年 9月15日～16日 163名
第4回 22年12月 2日～ 3日 171名

| | | | |
|-----|----------------|-----------|-------------|
| 第5回 | 23年 | 1月20日～21日 | 167名 |
| 第6回 | 23年 | 3月17日～18日 | 130名 (969名) |
| 場所 | ベルサール西新宿 (新宿区) | | |

イ 特別管理産業廃棄物の収集・運搬課程

| | | | |
|----|----------------|-----------------|------|
| 期日 | 第1回 | 平成22年10月20日～22日 | 101名 |
| 場所 | ベルサール西新宿 (新宿区) | | |

② 更新許可申請講習会

1, 121名

ア 産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の収集・運搬課程

| | | | | |
|----|----------------|-------|--------|---------------|
| 期日 | 第1回 | 平成22年 | 5月13日 | 180名 |
| | 第2回 | 22年 | 7月2日 | 170名 |
| | 第3回 | 22年 | 9月2日 | 171名 |
| | 第4回 | 22年 | 11月12日 | 174名 |
| | 第5回 | 23年 | 1月13日 | 171名 |
| | 第6回 | 23年 | 3月4日 | 173名 (1,039名) |
| 場所 | ベルサール西新宿 (新宿区) | | | |

イ 産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物の処分課程

| | | | |
|----|----------------|-----------------|-----|
| 期日 | 第1回 | 平成22年11月18日～19日 | 82名 |
| 場所 | ベルサール西新宿 (新宿区) | | |

③ 特別管理産業廃棄物管理責任者講習会

2, 818名

| | | | | |
|----|----------------|-------|--------|------|
| 期日 | 第1回 | 平成22年 | 5月14日 | 170名 |
| | 第2回 | 22年 | 5月19日 | 173名 |
| | 第3回 | 22年 | 6月17日 | 164名 |
| | 第4回 | 22年 | 6月18日 | 168名 |
| | 第5回 | 22年 | 7月1日 | 176名 |
| | 第6回 | 22年 | 7月7日 | 178名 |
| | 第7回 | 22年 | 9月3日 | 169名 |
| | 第8回 | 22年 | 9月17日 | 160名 |
| | 第9回 | 22年 | 10月7日 | 169名 |
| | 第10回 | 22年 | 10月8日 | 163名 |
| | 第11回 | 22年 | 11月11日 | 174名 |
| | 第12回 | 22年 | 12月16日 | 167名 |
| | 第13回 | 22年 | 12月17日 | 167名 |
| | 第14回 | 23年 | 1月14日 | 153名 |
| | 第15回 | 23年 | 2月17日 | 142名 |
| | 第16回 | 23年 | 2月18日 | 153名 |
| | 第17回 | 23年 | 3月3日 | 172名 |
| 場所 | ベルサール西新宿 (新宿区) | | | |

④ 特別管理産業廃棄物管理責任者講習会（医療関係機関等対象） 193名

期日：第1回 平成22年 9月 9日 104名
 第2回 23年 2月16日 89名
 場所：第1回 日本医師会館（文京区）
 第2回 ベルサール西新宿（新宿区）

⑤ PCB廃棄物の収集運搬作業従事者講習会 136名

期日：第1回 平成23年 2月23日
 場所：ベルサール西新宿（新宿区）

3. 相談指導事業（3号事業）

平成14年度から選任相談員を配置して相談指導事業を行っている。

22年度の相談件数は、1,796件で、前年に比較して370件減少した。

平成22年度の相談実績

| I 照会・相談・質問 区分内訳 | | | (1,796件の内訳) | | II 照会・相談・質問者 内訳 | | III 照会・相談・質問 内容内訳 | |
|--------------------|-------|-------|-------------|-------|--------------------|-------|----------------------|-----|
| 電話 | 処理先照会 | 1,280 | 排出事業者 | 1,163 | 処理先業者 | 1,153 | 法令照会 | 158 |
| | 相談事項 | 187 | 処理業者 | 240 | 法令照会 | 158 | 処理方法 | 122 |
| | 質問事項 | 183 | 建設業関係 | 131 | 処理方法 | 122 | 契約書・管理票 | 133 |
| 面接 | 相談・質問 | 55 | 行政機関、大学等 | 74 | 契約書・管理票 | 133 | リサイクル関連 | 21 |
| WEB | 相談・質問 | 91 | コンサル、弁護士等 | 15 | リサイクル関連 | 21 | 建設廃棄物 | 66 |
| 計 | | 1,796 | 医療機関 | 68 | 建設廃棄物 | 66 | 特管物・処理困難物 | 71 |
| | | | 一般都民 | 100 | 特管物・処理困難物 | 71 | その他 | 72 |
| | | | その他 | 5 | その他 | 72 | | |

4. 普及事業（4号事業）

(1) 広報活動

業界の社会的地位の確立と協会の堅実な発展を図るため、処理業者及び協会の社会的意義や取り組み状況などを、機関誌『とうきょうさんばい』、ホームページ、環境展（平成22年5月25～28日）などを通して明らかにした。

(2) 助成事業

平成22年8月以来、社会問題化した再生砕石へのアスベスト混入問題に対応するため、東京都と連携した安全宣言に向けて、アスベスト粉じんの大気環境測定助成事業を10月から緊急実施した。

〈実施結果〉 助成対象：42社（うち非会員7社）

(3) 協会発行図書等の有償頒布

主な有償頒布図書

| | |
|-----------------------|---------|
| マニフェストシステムがよくわかる本 | 1 3 8 部 |
| 一目でわかるマニフェストの書き方 (CD) | 2 5 部 |
| 産業廃棄物適正処理実務のポイント | 5 3 部 |
| 建設廃棄物処理委託契約書 | 6 1 2 部 |
| 建設廃棄物処理委託契約書及び記入例 | 7 4 部 |

車両表示板作製あっせん受注実績

| | *会社数 | 受注枚数 |
|------------|-------|---------|
| マグネット(着脱)式 | 4 7 社 | 1 0 3 組 |
| シート(固定)式 | 1 9 社 | 8 2 組 |
| 合 計 | 6 6 社 | 1 8 5 組 |

*会社数は、複数の形式を受注したものを整理した純数

(4) 産業廃棄物管理票 (マニフェスト) 普及事業

廃棄物処理法で義務づけられている、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) について、(社)全国産業廃棄物連合会及び建設八団体副産物対策協議会から受託し販売した。

また、電子マニフェストシステムについては、協会を通じての加入受付を行うとともに、連合会発行の、電子マニフェストの運用を円滑に行うための補助伝票 (法的な義務付けなし)「電子マニフェスト用産業廃棄物送り状 (受渡確認票)」の販売を行った。

産業廃棄物管理票普及実績

| 種 類 | | 単 票 | 連続票 | 計 |
|--------|-----|--------------|--------------|-----------------|
| 産業廃棄物 | 直行用 | 343, 800 セット | 401, 500 セット | 745, 300 セット |
| | 積替用 | 29, 900 セット | 109, 500 セット | 139, 400 セット |
| 建設系廃棄物 | | 462, 000 セット | 450, 000 セット | 912, 000 セット |
| 合 計 | | | | 1, 796, 700 セット |

電子マニフェスト用産業廃棄物送り状頒布実績

| | |
|---------------------------|-------------|
| 電子マニフェスト用産業廃棄物送り状 (受渡確認票) | 35, 700 セット |
|---------------------------|-------------|

(5) 環境活動事業

環境問題に対する関心の高まりの中で、女性部が実施主体となって、次世代を担う子供たちに向けた環境学習活動を、10月16日の『第12回環境

フェスタくにたち』に参加する形で実施した。

また、青年部は4月17日、18日に開催された『アースデイ東京2010』に参加し、環境活動の啓発や会場運営のボランティア活動を行った。

5. 機関誌の発行事業 (5号事業)

会員に対する基本的な情報伝達手段である、機関誌『とうきょうさんぱい』は、第236号から247号まで計12号を発行した。

内容は、協会、(社)全国産業廃棄物連合会、環境省、東京都の動向等を中心に、確実性と速報性に富んだものとして誌面の充実を図った。

<主な記事>

- ① 廃棄物処理法の一部改正法案を閣議決定し174回国会へ
排出事業者の適正処理や処理施設の維持管理など強化策盛り込む
- ② [第44回関東地域協議会]
坂川環境省産業廃棄物課長が処理法改正で講演
公益法人制度改革での意見交換や東京都から第三者評価制度聞く
- ③ [第53回定時総会]
新会長に高橋俊美氏、副会長に乙顔、赤石の両氏
70歳定年制打出し前役員陣に比べ3.5歳若返る
- ④ [収集運搬・安全衛生推進委員会合同研修会]
収集運搬業「社内管理体制構築のすすめ」を周知徹底
吉本名誉会長が開会挨拶し高橋新会長ほか委員が分担して説明
- ⑤ 21年度下期の新入会員対象に役員との懇談会開く
正会員4社と賛助会員1社が出席、協会活動に期待
- ⑥ 廃棄物処理法の政省令事項素案について検討
第13回廃棄物処理制度専門委員会開く
- ⑦ [東京都廃棄物審議会]
第6回計画部会開き廃棄物処理計画改定についての中間のまとめ(案)
- ⑧ [国内処理施設見学研修会]
都市空間のトータルサポート目指すアースサポート(株)訪ねる
当社の基本方針や社員教育等に参加者「参考になった」の声
- ⑨ [青年部だより]
全国青年部協議会が横浜で第7回全国退会開く
表彰式で東京産業廃棄物協会の受賞率の高さ目立つ
- ⑩ [新年のご挨拶]
「年頭にあたって」 会長 高橋俊美
「世界で最も環境負荷の少ない都市の実現を目指して」
東京都環境局長 大野輝之
- ⑪ [第54回定時総会]
新法人移行は自由度の高い一般社団法人をめざす
平成23年度の事業計画案と予算案を満場一致で承認可決
- ⑫ 全産廃連・関東地域協議会等が2月と3月に改正廃棄物処理法で説明会
排出事業者の立場から優良産廃処理業者認定制度の活用方法で見解示す

6. 環境対策事業 (7号事業)

(1) 産業廃棄物環境対策基金事業

平成15年度に創設した「産業廃棄物環境対策基金」は、新法人への移行に備えて、これを解消することとし、積み立てを中止した。平成23年度からは、環境対策事業として対応することとした。

| | |
|-------------|-------------|
| 平成21年度末基金総額 | 31,080,000円 |
| 平成22年度基金積立額 | 0円 |
| 平成22年度末基金総額 | 31,080,000円 |

(2) 災害廃棄物処理活動事業

災害廃棄物処理活動積立金は、新法人への移行に備えて、積み立て開始を中止し、平成23年度からは、活動に要する経費を予算計上することとした。

7. 顕彰・表彰事業 (6号事業)

平成23年3月の常任理事会において、平成23年度表彰者選考委員会を開催し、会員各社に推薦を求め提出された候補者を対象として、表彰基準に従い、業績、年齢、勤続年数などを資料として、下記18名を表彰することとした。

| | |
|----------|-----------------|
| 大石 孝夫 氏 | (株)黒姫 |
| 塚原 光野 氏 | (株)小谷中 |
| 望月 正貴 氏 | 日本ケミテック(株) |
| 星 善久 氏 | (株)木下フレンド |
| 水内 郁夫 氏 | (株)京葉興業 |
| 藤代 浩之 氏 | (財)東京都環境整備公社 |
| 斉藤 浩司 氏 | 相田化学工業(株) |
| 諏訪 一夫 氏 | (株)ハチオウ |
| 阿曾 正長 氏 | (株)三凌商事 |
| 榎本 智行 氏 | (株)共同土木 |
| 久保木 恒成 氏 | 東都運業(株) |
| 藤田 統一郎 氏 | 東京臨海リサイクルパワー(株) |
| 小野 さゆり 氏 | (株)東亜オイル興業所 |
| 大澤 達也 氏 | (株)東日本環境アクセス |
| 稲葉 義徳 氏 | コスモ理研(株) |
| 大原 英俊 氏 | (株)こばやし産業 |
| 森田 珠真子 氏 | 高俊興業(株) |
| 大湯 克利 氏 | (株)アンテック |

8. 管理運営と委員会活動

(1) 会員増強活動

許可申請に関する講習会、東京都と共催で実施する講習会等において、役員が入会を呼びかけるとともに、あらゆる機会を活用して会員数の拡大に努めた。

また、新入会員から協会への要望等を聞くため、意見交換会を2回開催した。

会員数の推移

| | 正会員 | 賛助会員 | 計 |
|------------|-----|------|-----|
| 平成21年度末会員数 | 584 | 75 | 659 |
| 平成22年度入会者数 | 17 | 2 | 19 |
| 〃 退会者数 | 24 | 8 | 32 |
| 平成22年度末会員数 | 577 | 69 | 646 |

(2) 総会・理事会・常任理事会

① 総会（2回）

第53回定時総会 期 日：平成22年 5月26日
場 所：青山ダイヤモンドホール
議 案：①平成21年度事業報告の承認
②平成21年度決算報告の承認
③理事、監事全員任期満了につき選任の件
出席者425名（内委任状315名）

第54回定時総会 期 日：平成23年 1月28日
場 所：青山ダイヤモンドホール
議 案：①平成23年度事業計画案の承認
②平成23年度予算案の承認
出席者399名（内委任状302名）

② 理事会（9回）

第277回理事会 期 日：平成22年 4月14日
第278回理事会 期 日：平成22年 5月12日
第279回理事会 期 日：平成22年 6月 9日
第280回理事会 期 日：平成22年 7月14日
第281回理事会 期 日：平成22年 9月 8日
第282回理事会 期 日：平成22年11月 5日
第283回理事会 期 日：平成22年12月 8日
第284回理事会 期 日：平成23年 1月12日
第285回理事会 期 日：平成23年 3月 9日

③ 常任理事会（18回）

| | | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|---------|-----------|
| 平成 22 年 | 4 月 14 日 | 平成 22 年 | 4 月 27 日 | 平成 22 年 | 5 月 12 日 |
| 平成 22 年 | 6 月 9 日 | 平成 22 年 | 6 月 22 日 | 平成 22 年 | 7 月 14 日 |
| 平成 22 年 | 7 月 27 日 | 平成 22 年 | 9 月 8 日 | 平成 22 年 | 9 月 28 日 |
| 平成 22 年 | 10 月 26 日 | 平成 22 年 | 11 月 5 日 | 平成 22 年 | 11 月 25 日 |
| 平成 22 年 | 12 月 8 日 | 平成 22 年 | 12 月 21 日 | 平成 23 年 | 1 月 12 日 |
| 平成 23 年 | 2 月 22 日 | 平成 23 年 | 3 月 9 日 | 平成 23 年 | 3 月 22 日 |

(3) 委員会活動

① 総務委員会

23年度の事業計画、予算に関する基本的事項、横断的事項について協議し調整を行った。主な内容としては、賛助会員への対応と会員増強の改善に向けた検討と「法制度検討委員会」立ち上げの準備を進めた。

② 建設廃棄物委員会

22年度には2回の委員会を開催した。11月には、東京都、(社)建築業協会及び(社)東京建設業協会、並びに当委員会より計33名の参加を得て、神奈川県川崎市にある(株)タケエイ・川崎リサイクルセンター及び(株)クレハ環境・かながわ事業所の施設見学会を実施した。また、同日、施設見学会終了後、8月に新聞報道により明るみになった再生砕石の一部にアスベストが混入していたという問題を受け、東京都より講師を招聘し「がれき類破碎施設における適正処理について」というテーマで講演会を開催した。

3月に計画されていた勉強会及び懇話会に関しては、残念ながら中止となってしまったが、その代わりとなる東京都において3月に開催された建設廃棄物適正処理講習会への積極的な参加を当委員会として推奨した。

22年度の活動としては、正直、満足のいくものではなかったが、経済の低迷が長引くなかで、産廃排出量の減少かつ処理料金のデフレ化が進行しており、不法投棄等の不適正処理が危惧される所であり、当委員会としても東京都及び関係諸団体それぞれの持つ課題を相互に認識し、協同して建設廃棄物問題に取り組んできた。その一つとして、リサイクルの滞りが懸念される再生砕石の利用促進について利用諸団体に対し働きかけを行った。

③ 広報委員会

基本方針である「正確な情報を迅速に発信」に努め、毎月1回の委員会を開催した。22年度は主に廃棄物処理法改正に伴う政省令の内容についての情報発信に注力した。

安全衛生、地球温暖化対策に関しては、ほぼ毎月機関誌『とうきょうさんばい』への記事掲載ができたが、3R及び健康管理については手付かずの状態に移した。また、協会ホームページとの連携も不十分な結果となった。

広報委員会の委員の充実に関しては、機関誌の編集校正作業も含めて不十分な体制で行わざるを得なかった。委員個々への負担が増大した状態を改善することもできなかった。現委員各位のご尽力に感謝しているところである。従って、情報収集のための取材活動も不十分な結果であったが、若手の委員からの執筆はそれなりに実現している状況となった。

女性部から申し入れがあった協会ホームページへの部活動状況の掲載については、期末にデータが整ったが、協会側ホームページの容量不足により実現には至らなかった。

④ 医療廃棄物委員会

22年度は会員に役立つ活動を推進するため、主に医療現場で起きている問題を取り上げた研修会を企画し、10月には会員を対象とした「多剤耐性菌について」の勉強会、2月には東京都環境局と(社)東京都医師会との共催により、広く特別管理産業廃棄物処理業者等を対象とした「医療機関から排出される感染性以外の有害廃棄物の取り扱いについて」と「法改正について」の研修会を都民ホールにおいて実施した。

また、11月には群馬環境リサイクルセンター(株)の施設見学会を実施し、整った設備での焼却状況を把握することができた。

今後も医療廃棄物適正処理の推進に役立つ情報をタイムリーに取り上げ、活動に取り組んでいく。

⑤ 収集運搬委員会

災害廃棄物処理支援活動については「支部別責任者一覧表」から連絡網の整備を終え、収集運搬委員と他数社でメール・FAX送信による模擬演習を実施した。今後は問題点を確認し改善策を検討する。

(社)全国産業廃棄物連合会作成の冊子『産業廃棄物収集運搬業社内管理体制構築のすすめ』をテキストとした研修会を安全衛生推進委員会と合同で開催し、23年度の実施についても検討に入った。

また、法改正に伴う政省令改正による許可制度の内容については、説明会にも参加し、各委員とも理解を深めるように努めた。

施設見学会については、10月22日から23日にかけて、当協会会員の仙台環境開発(株)の中間処理施設並びに管理型最終処分場において実施した。石綿含有物の処分対応及び水処理施設は素晴らしいものであった。

⑥ 安全衛生推進委員会

産業廃棄物処理業界の労働災害防止に対する取り組みは着実に進んでおりその成果も大きく現れているが、業界における労働災害は依然高い水準にあり労働安全衛生の向上をさらに推進しなければならない。その為にも、教育・啓発活動として定期的な研修会・特別教育を3回実施した。安全衛生研修等には大きな変化や流行はないが、少しでも会員が興味を持ち、役立つ内容となるよう工夫を試みた。東京労働局より講師を招聘した第2回安全衛生研修会では「廃棄物処理業における労働災害防止対策」をテーマに実施したが、業界特有の事例に基づいた具体的且つ非常に参考となる内容であった。

また、労働安全衛生に対する意識昂揚を図るために、表彰制度の導入に向けて取り組みを進めた。

⑦ 多摩支部

22年度は、6月25日に多摩支部会を開催し、施設見学会の見学先及び日程について報告を行った。支部会終了後、東京都多摩環境事務所より講師を招聘し「多摩地区における不適正事案及び今後の指導方針」という標題で講演会を実施した。

また、9月3日・4日の日程で行われた恒例の施設見学会は、国立市にある支部会員の(株)リスト、山梨県のエルテックサービス(株)を訪問した。両施設とも焼却処理だけではなく、(株)リストの屋上緑化と風力発電施設やエルテックサービス(株)の焼却廃熱を利用したラン栽培など環境にも配慮された施設に感銘した。施設見学会終了後、山梨県石和温泉に宿泊し支部会員同士親睦を深め、充実した見学会となった。

23年3月3日には多摩支部幹事会を開催し、新年度の計画及び日程等について討議を行った。その後開催した東京都多摩環境事務所の方々との「適正処理意見交換会」では、改正廃棄物処理法等について活発な議論が交され、とても有意義な意見交換会となった。

⑧ 青年部

22年度は、昨年度のテーマでもあったCO₂削減を実行するべく、引き続き教育研修を重点に実施した。そのかいもあり、横浜で開催された(社)全国産業廃棄物連合会青年部協議会全国大会の「CO₂マイナスイニシアティブプロジェクト」において、当協会員から8社(エントリー18社中)も表彰された。

活動としては、『アースデイ東京2010』への参加、若手社員との交流会としてリーダーシップをテーマとした研修会、部員対象に「みんなで参加するCO₂マイナスイニシアティブプロジェクト」の研修会、東京都産業廃棄物対策課の係長を招いて「廃棄物処理法の改正内容」の研修会を実施した。また、当協会青年部の主催により、(社)全国産業廃棄物連合会青年部協議会関東ブロックの賀

詞交歓会及び研修会を東京池袋にて開催した。

幹事会に関しては10回開催し、計21回の行事を実施した。行事の運営は各委員会（総務・法令・コミュニケーション）が中心となり、部員も少しずつだが増加、若返りもしているなか、各行事は多数の参加者で実施できた。

⑨ 女性部

22年度は、企画研修チームとPRチームからなる2チーム制を導入し、今までにない新たな取り組みを実施した。まず、5月に文京学院大学の中山智晴教授の講演会「台所から地球を考える」を開催したことがきっかけで、9月には同大学のふじみ野キャンパスを女性部員が訪問し、学生からは環境問題に対するこれまでの取り組みについて報告があり、当方からは若い女性部員が自社の事業説明を行なうことで、若い世代に産業廃棄物業界を身近に感じてもらうことができた。また、10月には国立市の環境フェスタで「廃油でキャンドルづくり」を実施、12月には親会と連携した研修会事業として、ドキュメンタリー映画『バスーラ』の上映会と四ノ宮監督の講演会を開催した。年が明けて、2月には埼玉県産業廃棄物協会女性部会が主催した「関東地域交流会」に参加し、各県協会の女性部会や女性スタッフの方々との親睦を深め、情報交換や交流活動の充実を図った。

22年度も協会の広報事業の一助となる活動を継続できたのではないかと思う。